

災害時における自助と共助

災害時には、特に自助、共助が大切になります。
今回は、橋本市内で防災活動を行なっている「橋本市自主防災組織連絡協議会」と「伊都・橋本防災士の会」の各会長にお話を伺いました。



橋本市自主防災組織連絡協議会

本会は、市内113の自主防災組織同士の連携を密にし、防災活動の向上と災害時の被害の軽減を図ることを目的としています。拠点避難所運営や災害情報収集などの勉強会を実施するなど、防災に関する知識の普及・啓発活動に取り組んでいます。

防災活動を行う上で大切なことは、災害をイメージして対策を行うことです。そして災害時に必要なものは何か、どのようなことができるのかを考えて準備することです。

災害への備えについては、まず、ハザードマップで自分の住居の災害リスクを把握してください。いざという時スムーズに避難できるように避難場所の確認や避難の開始時期を決めておき、できる限り素早く行動するようにしましょう。指定された拠点避難所だけでなく、知人宅や宿泊施設でもかまいません。

自宅で避難する在宅避難も選択肢の一つです。



会長
きたさかゆうじ
北阪裕二さん

伊都・橋本防災士の会

私たちは、会員21人が在籍する組織で、橋本市と伊都郡に住んでいる皆さんの地域防災力の向上を目指し、減災意識の普及・啓発に取り組んでいます。また、会員同士の情報交換や相互支援、防災研修などを行っており、今後も会員を増やし、活動の幅を広げたいと考えています。

防災・減災については、一人ひとりが災害を身近なものとして捉え、防災知識や技術を学び、自分ができることは何かを考え、一つずつ実践することが大切です。さらに普段から自助と共助について考えておくことも必要です。

本会では、依頼を受けて学校や地域の集まりに対して出前講座を実施しています。多くの方が防災の正しい知識や技術を身につけ、防災に関心を持つことで、皆さんやその家族が被災されなければよいと思っています。また、防災・減災活動の核となるリーダー育成も重要な取り組みです。



会長
やましたのぼる
山下登さん

日頃からの備えが大切

災害は、全国各地で毎年のように起こっています。しかし、「いつ」「どこで」起こるかを予測することは困難です。近年の気候変動により、局地的に激しい雨が降る頻度が増えています。また、地震も全国各地で発生しています。災害は決して他人事ではありません。
地域の取組みが被害を減少させる大きな要因にもなります。備蓄品の準備や、地区の防災訓練に参加するなど、自分のできることから始めてみましょう。
「まさか」は突然やってきます。備えておけばよかったと後悔しないためにも、日頃から災害に備えておくことが大切です。

● 問い合わせ
危機管理室 ☎33-6105



地域の防災力を高めよう

災害は、「いつ」「どこで」起こるかわかりません。日頃から災害に対して備えることが大切です。災害に対して備えることで、気持ちに余裕が生まれ、自分が助かり、大切な人を助けることにもつながります。いざという時に「まさか」と思うことがないように、できることから取り組んでみましょう。

【危機管理室】

平成29年台風21号の橋本市の被害（紀の川河川敷）



自助・共助・公助の連携

